

# 教育学: 教育って何？

## —教育という言葉の意味を 考 える—

### 1. 教育という言葉の定義

#### ●人間はどのようにして成長する？

→自然や文化、その周囲の人間といったものとのやりとりから学習をしている



では、教育とは何なのか？

⇒「ヒトには生まれながらには備わっていない能力を身につけさせようとする行為（作用）、またはその結果をいう。ここにいう能力には、技能や知識や思考力など、ヒトの生存に必要な身体的・知的・情動的な諸力が含まれる。これらの能力の獲得を学習と呼ぶとすれば、教育は学習を促し助成する作用として理解される」（教育思想史学会編『教育思想事典』勁草書房、2000年、127頁）

★はたらきかける側に何らかの意図が必ず存在している

- |   |   |
|---|---|
| 1. それでは、教育学の授業を始めていきな<br>と思います。   | 1. Good morning ladies and gentlemen, let us<br>begin today's program.  |
| 2. 今日は、教育とは一体何であるのかにつ<br>いて、教育という言葉の意味を探りなが<br>ら話をしていきたいと思います。  | 2. Today, I would like to talk about education by<br>exploring the meaning of education.  |
| 3. いきなりですが、皆さんに質問です。皆<br>さんはなぜ今の自分になれているのでし<br>ょうか？言い換えれば、皆さんの今の性<br>格や考え方というのは、どのようにつく<br>られてきたのでしょうか？全て親のおか<br>げでしょうか？それとも、学校の先生<br>のおかげでしょうか？もちろん、そうい<br>う部分もあるでしょう。 | 3. I would like to propose to a question to begin<br>my talk. How have you come to be the person<br>you are now? Have you ever pondered that<br>question? In other words, how do you think<br>your character was formed? What about<br>your way of thinking? Is your character a<br>result of the way in which your parents<br>brought you up? Or was it influenced by the<br>teachers you have had in your school years?<br>In fact, your parents and your teachers have |

4. しかし、それだけではないはずです。皆さんは、友人などの人間、自然、文化などから様々な影響を受け、それらから学習をすることを通して育っています。
5. その意味では、他の人間や自然、文化などが複雑に絡みあった状況の中で活動し、そこから学習することを通して、皆さんは成長するのだと考えてもいいでしょう。
6. このように、一般的に教育をする人だと思われている人以外の人間やものから、皆さんは非常に多くを学んで生きているのです。
7. 今言ったことを踏まえた場合、教育とは一体何なのでしょう？教育学の事典をひくと、「ヒトには生まれながらには備わっていない能力を身につけさせようとする行為（作用）、またはその結果をいう。ここにいう能力には、技能や知識や思考力など、ヒトの生存に必要な身体的・知的・情動的な諸力が含まれる。これらの能力の獲得を学習と呼ぶとすれば、教育は学習を促し助成する作用として理解される」という言葉が載っています。
8. このように、教育とは、生物学的な意味でのヒトには備わっていないものを身につけさせようとする行為だということです。恐らく、この定義が最も一般的であり、かつ基本的なものでしょう。
9. 例えば、人間は生まれた後で放っておけば、日本の首都の名前が言えるようになるわけ

made some contribution to your character development.

4. However, there are many other influences and factors. You are also affected by your friends, your social environment, and the culture you live in. Essentially as we grow up our individual character is subject to influence of many people and factors.
5. Hence we exist and act in a complex environment in which our encounters with people, nature, culture are all mixed together. Our growth occurs through learning and responding in this process.
6. Our growth and development are affected by people, environment and situations that are not generally considered to be factors in our education.
7. Then, what this is the meaning of education on the basis of what I have just described? The encyclopedia of education says that “The action or function that enables human beings acquire the abilities which are not innate to them. The abilities mentioned here involve physical, intellectual, and emotional ones that are necessary for survival. If you call acquisition of them learning, education can be understood as action to promote and help learning.”
8. Education can be defined as an act of enabling human beings to acquire things which are not biologically innate to them. This is a basic definition that may be acceptable to many of us.
9. For example, left alone, human beings cannot acquire knowledge on geography,

でもなければ、レポートが書けるようになるわけでもありません。また、正しく箸を持てるようになるわけでもありませんし、何か悪いことをした後に「ごめんなさい」と言えるようになるわけでもありません。

10. 先ほど、人間は学習をして成長するのだと言いました。しかし、今言ったことができるようになるためには、皆さんからの自発的な学習だけに任せるわけにはいきません。
11. そのため、先ほどの定義にもあったように、皆さんの学習を促したり、時には強制したりするはたらきかけとして、教育が存在しているのです。
12. さて、このように教育という言葉を解釈する時に注意しなければならないのは、そこには働きかける側の何らかの意図が存在しているということです。
13. 子どもを育てている親にしても、皆さんが学校で会う先生にしても、「これは将来役に立つ／必要だ」とか、「これは善いことだ」という意図のもとに、何らかのはたらきかけとしての教育を行っています。
14. ・例えば、自分の子どもが勝手に他人のものを盗んだら、親は叱るでしょう。人のものを盗んで褒める親というのは基本的にはいません。「ひとのものを勝手に盗んではいけない」というルールが、子どもがこれから生きていく社会においては必須であるのだと親が信じ、それをちゃんと伝えなければならないと考えているからこそ、教育として叱るわけです。
15. また他にも、学校の先生が算数を教えるのも、先生が算数を好きで好きで誰かに伝える

writing and grammar, or develop social skills. Even the rules of social interaction are learned. We are taught to say ‘good morning’, ‘good night’ and ‘I am sorry’. We use these phrases in our social interactions repeatedly.

10. As I have stated previously, human beings grow and develop while they learn. However, to be able to act and behave in the manner I have mentioned, human beings cannot rely only on spontaneous learning.
11. Therefore, as the definition I mentioned shows, the word education means an act of promoting — sometimes forcing — your learning.
12. One thing we need to bear in mind when we think about the word education is that there exists an intention on the part of those who educate.
13. Parents who bring up their children, and the teachers who educate them at school justify their efforts with statements such as “This is useful (or necessary) for your future,” or “This is the right thing to do”.
14. For example, parents will scold their children who steal from others. No normal parent is likely to praise a child who steals. This is because parents are convinced of the fact that the rule “Do not steal” is indispensable in society and think that they have an obligation to teach this absolute rule to their children. Therefore, parents firmly believe that disciplining children is part of their education.
15. In addition, teachers teach arithmetic not because they love it and want to tell someone

- たいから皆さん教えるというわけではなく、算数の知識がこれから生きていく社会において必要であり、社会からその知識を身につけさせてほしいをと要請されているからこそ、学校で教えるわけです。
16. そのため、教育の内容自体は、場所や時代によって異なってきます。
17. 例えば、ラーメンやうどんなどの麺を音をたててズルズルとすするのは、日本では特に何も言われませんが、アメリカなどでは失礼に当たります。そのため、仮にアメリカで生まれ、アメリカで育つ子どもが麺を音をたててすすれば、それはダメだよ、ということで教育すべき対象になるでしょう。
18. また、パソコンの知識は数十年前には必要ありませんでしたが、今ではパソコンについて知っている・使えるというのは必須になっています。そのため、子どもの時からパソコンについて教育をする必要が出てきます。
19. このように内容自体は全く異なる可能性はありますが、教育というはたらきかけには、必ず何らかの意図が存在しているのだということは必ず覚えておいて下さい。
20. これは極めて基本的なことではありますが、とても大切なことです。教育においてしばしば、子どもの興味・関心や生活実態を中心に教育を展開すべきだと言われていきます。もちろん、これが間違っているというわけではありません。
- about it but because the knowledge of arithmetic is necessary for social interaction and hence the society requires teachers to have their students acquire this particular skill.
16. The content of education depends on place and time.
17. For example, in Japan, it is socially acceptable to not to suppress any eating sounds while enjoying a bowl of noodles. People slurp while they eat. It is quite normal. But dining etiquette in other cultures may often expect diners to pay attention to not making any sounds while consuming food. Such social expectations are culturally dependent. If a child is born and grows up in a country where social norms require them to have particular etiquette for certain actions, the teaching of this norm is the object of education.
18. The knowledge of computer usage was not necessary for general population three decades ago. This is no longer the case. The rise of such a necessity led to the formation of a syllabus and teaching methods for basic computer education.
19. We need to remind ourselves that education involves social intention despite the fact the content and context of education differs.
20. This is a very basic but important fact. Theories of education generally state that parents should educate children according to what children find interesting and worth pursuing in life. I am not saying this is wrong.



21. しかしながら、単に子どもの興味や関心だけを尊重するということは、決して教育にはなりえません。こちらが何らかの意図を持ってはたらきかける行為があるという前提のもとに、子どもの興味や関心を尊重した教育は成立するのです。
22. 仮にこれを忘れてしまった場合、子どもの興味・関心の尊重は、教育する側の責任が消失した、単なる放任にしなければならないでしょう。教育というものが何らかの意図を持ってはたらきかける行為なのだという点は、基本的な定義として、皆さんに覚えておいてほしいことです。
21. However, if you solely emphasize what children find interesting, this cannot really be called education. Education which focuses on what they see as interesting is possible on the assumption that we act intentionally.
22. Once you forget this, emphasizing their interests in life means non-intervention and as a result the educator is acting irresponsibility. For the purposes of this discussion please bear in mind that education is an act with well defined intentions.

## 日本語解説

### 文3. 「いきなり」

突然、唐突、事前に予告もなく。

例：自転車がいきなり横道から飛び出してきたのが、事故の原因だ。

### 文3. 「おかげ」

ある人や物事がもたらす結果・影響。それが良いことであっても、悪いことであっても使われます。

例：あなたのおかげで助かりました。

一生懸命勉強したおかげで、合格した。

### 文7. 「ヒト」

サル目（霊長類）ヒト科の動物（生物学的分類）としての人を指します。。ひと、人、人間と区別して、生物学的な意味で使う場合「ヒト」と表記します。

一般的な「ひと」「人」に比べ、「人間」は社会的存在として人格を中心に考えた個人、またはその全体を指す。

### 文8. 「恐らく」

たぶん、思うに。

例：あしたは、おそらく雪になるだろう。

文 14. 「勝手に」

自分だけに都合のよいように行うこと。わがままなことをいいます。

例：会社の問題だから、勝手に決めるわけにはいかない。

都合、便利という意味もあります。

例：この機械は、使い勝手が悪い。

また、台所のことを指すこともあります。「勝手口」は台所に通じる出入り口のことです。

文 17. 「仮に」

現実ではないが、もしあったとして、「もしも」の意味。

例：明日仮に大雪になったとしても、絶対に行く。

文 17. 「音をたてる」

「たてる」には多くの意味がありますが、「音」について使われるときは「ひびかせる」

「あらわす」の意味になります。

例：彼は大きな足音をたてて歩くから、来るとすぐわかる。

文 18. 「必須」

かならずなくてはならないこと。

例：60歳以上ということが会員になるための必須条件です。

文 21. 「決して・・・にはなりません」

「決して」は後ろに否定表現や「ものか」を伴って、「必ず、どうしても、絶対に」の意味になります。「なりえる」は「なる」＋「得る」で「なることができる」の意味ですからその否定形で、「なることができない」です。したがって、「絶対に・・・にはならない」といことになります。

## 2. 教育という言葉の歴史

### ●educationの訳語としての教育

江戸時代末期～明治時代にかけて、educationの訳語としての教育が定着

### ●educationの歴史—教と育の分離と統合—

→「子どもあるいは若い人々、動物を養い育てるプロセス」

『オックスフォード英語辞典』より。ただし、現在ではこの用法はない。

=education: 授乳を中心とし、お産の世界とつながっている

★同様の話は漢字にも存在している

→「教」: 天の声を聴き、心を澄まして伝える営み

「育」: 子宮の中ではなくて生まれている胎児

↑

しかし、ヨーロッパにおいて17世紀以降、育は教に凌駕されていく

⇒education(育)がinstruction(教)に乗っ取られ、教育として成立するという事態(19世紀前半に完結)

↑

学校が社会に広まり、教育を独占した

★1. モニトリアル・スクールにおける教授行為の一斉性、学習行動の一斉性

★2. 家庭も学校に引きずられていく

- さて、ここまで教育を人間にとって必要な技能などを身につけさせる、意図的なはたらきかけとして定義してきました。このような定義自体は、現代においてはかなり一般的であります。
- しかしながら、実は教育のこのような定義づけは、昔からずっとそうだったというわけではありません。そもそも、教育という言葉自体も、頻繁に使われていたわけではありませんでした。
- 実際、日本において教育という言葉が先ほど話した意味を持って世間に広がるのは、江戸時代末期から明治時代にかけてであり、かつそれは英語の education の訳語としてでし

- I define education as an intentional act with an aim to encourage human beings to acquire skills that are socially defined as necessary. This is a generally accepted definition.
- However, this definition does not apply to all cases. In fact, the word “education” was not frequently used in the past.
- At the end of the Edo era and the beginning of the Meiji era, the Japanese word of “kyouiku” came to be generally accepted to mean “education” in the

た。箕作麟祥<sup>みつくりりんしょう</sup>という人<sup>ひと</sup>がチェンバースという人<sup>ひと</sup>の著作<sup>ちやくさく</sup>を『教育論<sup>きやういくろん</sup>』と訳<sup>やく</sup>した後<sup>のち</sup>、英米<sup>えいべい</sup>の教育書<sup>きやういくしょ</sup>の翻訳<sup>ほんやく</sup>と受容<sup>じゆよう</sup>を行<sup>おこな</sup>うことにより、教育<sup>きやういく</sup>という言葉<sup>ことば</sup>が日本<sup>にほん</sup>に広<sup>ひろ</sup>がっていったのです。

4. そのため、教育<sup>きやういく</sup>という言葉<sup>ことば</sup>の歴史<sup>れきし</sup>をたどっていくためには、目線<sup>めせん</sup>を海外<sup>かいがい</sup>に移<sup>うつ</sup>し、education という言葉<sup>ことば</sup>の意味<sup>いみ</sup>をたどっていく必要があるでしょう。
5. 実は、education は、もともと教育者<sup>きやういくしや</sup>による意図<sup>いとう</sup>的<sup>てき</sup>なはたらきかけという意味<sup>いみ</sup>を持<sup>も</sup>っていたのではありませんでした。『オックスフォード英語辞典<sup>えいごじてん</sup>』(OED)をひくと、education の第一項目<sup>だいいちこうもく</sup>として、次のような表記<sup>つぎ</sup>が見られます。「子どもあるいは幼い人々<sup>おきなひとびと</sup>、動物<sup>どうぶつ</sup>を養<sup>やしな</sup>い育てるプロセス」。さらに、この意味<sup>いみ</sup>では現在<sup>げんざい</sup>は使用<sup>しやうよう</sup>されていないという注意書<sup>ちゆういが</sup>もされています。
6. これが意味<sup>いみ</sup>するのは、昔<sup>むかし</sup>は、意図<sup>いとう</sup>的<sup>てき</sup>なはたらきかけではなく、肉体的充足<sup>にくたいてきじゆうそく</sup>を満<sup>み</sup>たす行為<sup>こうい</sup>として education という言葉<sup>ことば</sup>が存在<sup>そんざい</sup>していたのです。その意味<sup>いみ</sup>では、education は授乳<sup>じゆにゆう</sup>を中心<sup>ちゆうしん</sup>としたお産<sup>さん</sup>の世界<sup>せかい</sup>とつながっていたわけです。そして、何か<sup>なに</sup>を意図<sup>いとう</sup>的<sup>てき</sup>に教<sup>おし</sup>えるという行為<sup>こうい</sup>に対しては、instruction などの言葉<sup>ことば</sup>が別に存在<sup>べつ そんざい</sup>していました。
7. 似たような話<sup>はなし</sup>は、漢字<sup>かんじ</sup>にも見<sup>み</sup>ることができます。教育<sup>きやういく</sup>は教<sup>きやう</sup>と育<sup>いく</sup>という2つの文字<sup>もじ</sup>からできているわけですが、この文字<sup>もじ</sup>は、中国最古<sup>ちゆうごくさいこ</sup>の字典<sup>じてん</sup>『説文解字<sup>せつもんかいじ</sup>』の中で、今<sup>いま</sup>から黒板<sup>こくばん</sup>に書<sup>か</sup>くような形<sup>かたち</sup>を取<sup>と</sup>っています。

present meaning of the word which I defined earlier in my talk. After MITSUKURI Rinsho translated Chambers' book "The Theory of Education," following the translations of other of foreign books on education, the usage of the word "kyouiku" spread throughout Japan.

4. Therefore, to trace the history of this word, it is necessary to trace the way in which Japanese writers and translators absorbed it from overseas.
5. In fact, originally education did not have the meaning "an intentional act." If you look up *OED*, you can find the following definition of education, as the first item; "The process of nourishing or rearing a child or young person, or an animal." You can also find the editors' note which says this meaning is no longer ascribed to the word.
6. This means that education existed not as an intentional act, but as a behavior for fulfilling one's physical needs. In this sense, education was connected to the world of human birth centered on midwifery. The word "instruction" was used to mean teaching with intention.
7. You can find the same kind of story in Chinese characters that used in Japan. *Kyouiku* consists of *Kyou* and *Iku*. These characters are listed in *Shuōwén Jiězì*. Let me write them on the blackboard for you.

8. これらがどういう意味を持っていたのでしょうか。
9. まず、上の教という文字についてですが、これはもともと神様からのお告げの様子を描いた象形文字です。
10. この文字によって、天の声に耳を澄まし、それを伝えるという営みが意味されていたのです。
11. また一方、育の文字の原型であるこちらは、上の部分が、子どもの「子」をひっくり返した形です。下の部分は、母親の子宮の中で育まれている胎児を表しています。
12. こちらは、先ほど説明した education の昔の意味と同じです。
13. このように、漢字の成り立ちからみても、教育という言葉は今では当たり前のように使っていますが、教と育はもともと別の意味を持った言葉であって、セットで使われるにはお互いの意味がかけ離れていたのです。
14. そう考えると、教育と訳された education は、育だけでもととは表すことができるものであったのではないかとすることができます。
15. しかしながら、17世紀以降、とりわけ18世紀を通して、education（育）の世界は instruction（教）に乗っ取られ、最終的には19世紀前半にその事態が完結します。
16. では、一体なぜそのような事態が起こったのでしょうか。
8. What do they mean?
9. First, the upper character *Kyou* is the hieroglyphic which describes a message from God.
10. This character means listening to the voice from the heaven and passing the message in that voice to others.
11. On the other hand, the upper part of the original character of *Iku* is the overturned form of 子 which means “child”. The lower part means “fetus” nurtured in a mother’s womb.
12. This particular character means education in the sense of the word I mentioned earlier.
13. From the viewpoint of the history of Chinese characters, *Kyouiku*, which we use today, has several different meanings. The meaning of each character is far too distinguished to be used in combination to have a single meaning.
14. We can say that education, translated into *Kyouiku*, could be described only with *Iku*.
15. However, from the 17<sup>th</sup> century onwards, and especially throughout the 18<sup>th</sup> century, the word of education (*Iku*) has begun to be supplanted by that of instruction (*Kyou*). This process was completed in the first half of the 19<sup>th</sup> century.
16. Why did this happen?

17. その原因<sup>げんいん</sup>として挙げ<sup>あ</sup>げられるのは、皆<sup>みな</sup>さんの知<sup>し</sup>っている学校<sup>がっこう</sup>が社会<sup>しゃかい</sup>に広<sup>ひろ</sup>く普及<sup>ふきゅう</sup>したということです。
18. つまり、学校<sup>がっこう</sup>の普及<sup>ふきゅう</sup>が、education の意味<sup>いみ</sup>をお産<sup>さん</sup>の世界<sup>せかい</sup>とつながったものから切り離<sup>きはな</sup>し、教育者<sup>きょういくしや</sup>による意図<sup>いど</sup>的<sup>てき</sup>なはたらきかけという、先<sup>さき</sup>ほど説明<sup>せつめい</sup>した定義<sup>ていぎ</sup>へととしていったのです。
19. 私<sup>わたし</sup>たちが知<sup>し</sup>っているような学校<sup>がっこう</sup>の原型<sup>げんけい</sup>は、イギリスにおいてモニトリアル・スクールという形<sup>かたち</sup>で18世紀末頃<sup>せいまつごろ</sup>に出現<sup>しゅつげん</sup>します。
20. この学校<sup>がっこう</sup>は、産業革命<sup>さんぎやうかくめい</sup>によって大量<sup>たいりやう</sup>に生み出<sup>だ</sup>された労働者階級<sup>ろうどうしやかいききゅう</sup>の子どもを囲い込み<sup>かこいこみ</sup>、次世代<sup>せだい</sup>の労働者<sup>ろうどうしや</sup>として育成<sup>いくせい</sup>することを目指<sup>めざ</sup>してつくられました。
21. そして、この学校<sup>がっこう</sup>は、効率的<sup>こうりつてき</sup>であったがゆえに、爆発<sup>ばくはつてき</sup>的に普及<sup>ふきゅう</sup>していきました。
22. 今<sup>いま</sup>ここに描<sup>か</sup>いたのは、ジョセフ・ランカスター<sup>ひと</sup>という人<sup>ひと</sup>によって提唱<sup>ていしょう</sup>されたモニトリアル・スクールの内部<sup>ないぶ</sup>の簡略図<sup>かんりやくず</sup>です。
23. 手前<sup>てまえ</sup>が教壇<sup>きやうだん</sup>、中心<sup>ちゆうしん</sup>の線<sup>せん</sup>は椅子<sup>いす</sup>です。これは本当<sup>ほんとう</sup>ならもっといっぱいあります。そして、この半円<sup>はんえん</sup>は何かと言<sup>い</sup>え、生徒<sup>せいと</sup>がグループに分かれて授業<sup>じゅぎやう</sup>を受ける場<sup>ば</sup>です。そのため、先生<sup>せんせい</sup>がずっとひとりで教<sup>おし</sup>えるわけではなく、生徒<sup>せいと</sup>の中からモニター<sup>なか</sup>（助教<sup>じゆきやう</sup>）が選ば<sup>えら</sup>れ、その人<sup>ひと</sup>たちが他の生徒<sup>ほか</sup>に教<sup>せ</sup>えるという形<sup>かたち</sup>がとられていました。
24. このような学校<sup>がっこう</sup>においては、望ましい椅子<sup>のぞいす</sup>の座り方<sup>すわかた</sup>や起立<sup>きりつ</sup>の仕方<sup>しかた</sup>などが示<sup>しめ</sup>され、生徒<sup>せいと</sup>はそれを身<sup>み</sup>につけるよう一斉<sup>いつせい</sup>に指導<sup>しどう</sup>されていました。
25. 細<sup>こま</sup>かい説明<sup>せつめい</sup>は省<sup>はぶ</sup>きますが、このようなモニト
17. One reason is that the schooling as we know now became a popular social institution.
18. The prevalence of school detached the meaning of education from the world of birth and defined it as an intentional act.
19. The original form of school as a social institution that we know today first appeared as a monitorial school in Britain in the 18<sup>th</sup> century.
20. Such schools were founded to force the working-class children to go to school and bring them up as workers of the next generation. These schools became one of the instruments that created the discipline necessary for factory work.
21. The number of such schools spread explosively due to their efficiency in what they had set out to do.
22. The picture I have drawn is a simple sketch of the monitorial school which was advocated by Joseph Lancaster.
23. This side is a platform, and the lines in center means chairs. This semicircle is the place where students in a group take a class. A teacher does not teach alone all the time. A monitor selected from students was assigned the task of teaching others.
24. In this school, the preferable way of sitting on the chair or standing up were shown, and students were required to acquire such habits
25. I will not discuss this in further detail

リアル・スクールが形を変えながら広まった結果が、現在の私たちが想像し、皆さんが経験したような学校の形であるということです。

26. このような形の学校が広まった結果、教育という営みは学校に独占されていくことになります。

27. そして、生徒の学習行動を積極的に規定し、導いていくという意味での、意図をもったはたらきかけが、education が元来持っていたお産の世界とのつながりを消し去り、結果的に先ほど定義づけたような意味を帯びることになったのです。

28. 加えて、学校の普及は、家庭における教育の営みをも変化させていったと言われています。もともと家庭では、昔の意味、お産の世界とつながった育の意味での教育が主流でした。

29. しかし、学校を基盤とする教育観の普及に伴い、education の意味も変わります。そして、昔からの意味、お産の世界とつながった育の意味での教育は駆逐され、家庭にも学校の意味での教育がどんどん入り込んで、主流になっていったのです。

30. その結果、お産の世界とつながった育の担い手であった母も飼い馴らされ、学校の先生と同じような形での教育を行う役割を担うようになっていったのです。

31. このように、ともすると当たり前前のようにも見える教育の定義については、以上のような歴史的な意味があるのだということは、ぜひ

for lack of time. In short, monitorial schools spread out in various forms. The types of school which we experienced in our lives are the end result of the 18<sup>th</sup> century monitorial school model.

26. The result of the spread of this type of school caused the act of education to be monopolized by school.

27. School as an intentional act of regulating learning removed the connection that previously existed between education and birth. Hence, the new institution of school created the definition of education I described above.

28. The prevalence of schools is said to have changed the nature of education at home. Originally, the mainstream of education at home was education (*Iku*) that was connected with the world of birth.

29. However, as the view of education based on school became popular, the meaning of education changed. The old meaning of education which was connected to the world of physical birth was expunged. The new meaning entered into the family home, and became the mainstream.

30. As a result, mothers who took a main role in *Iku* connected to the world of birth were given a new domestic task. They took the role of a schoolteacher.

31. This is the history of the way in which education gained the meaning which is commonly accepted today. I would like

覚えておいて下さい。

you to remember this.

## 日本語解説

### 文2. 「しかしながら」

「しかし」のやや格式ばった言い方です。意味は「しかし」と変わりません。

例：このレポートの内容はなかなかよい。しかしながらことばの間違いが大変多い。

### 文2. 「そもそも」

元来。ものごとを説明する時、はじめに使う言葉。

例：そもそも人間というものは、一人では生きられないものなのです。

### 文4. 「意味をたどる」

「たどる」は「道や川にそって進む」ことをいいますが、ここでの「意味をたどる」は「意味をあれこれ考え合せて推しはかっていく」ことです。このような「たどる」は次のような使い方があります。

例：歴史をたどっていくと、ある事実に気がついた。

### 文6. 「お産」

「産」は子を産むこと、出産のことで、「お」をつけて「お産」として使われることが多い。

例：娘のお産が心配だ。

品物を作り出すことや作り出した土地をいうこともあります。

例：愛知県産のぶどうが売られている。

### 文9. 「お告げ」

神や仏などがその意志や予言などを人間に知らせること。またその知らせ。

「告げる」という動詞は、「伝え知らせる」ことです。

例：にわとりが時を告げる。

### 文9. 「象形文字」

物の形を抽象化し、文字化したもの。漢字やエジプト文字などはその例です。それに対して、「表音文字」は音声上の単位に当たる文字です。

### 文10. 「耳を澄ます」



聞<sup>き</sup>こうとして注意<sup>ちゅうい</sup>を集中<sup>しゅうちゅう</sup>することをいいます。

例：とり<sup>れい</sup>の<sup>こえ</sup>声<sup>こえ</sup>に<sup>みみ</sup>耳<sup>みみ</sup>を<sup>す</sup>澄<sup>す</sup>ませる。

「澄<sup>す</sup>ます」は、元<sup>もと</sup>は「(心<sup>こころ</sup>の) けがれを清<sup>きよ</sup>める」という意味<sup>いみ</sup>がありますが、それが「心<sup>こころ</sup>を落<sup>お</sup>ち着<sup>つ</sup>かせる」「注意<sup>ちゅうい</sup>を集中<sup>しゅうちゅう</sup>させる」などの意味<sup>いみ</sup>にも使<sup>つか</sup>います。

例：心<sup>れい</sup>を澄<sup>こころ</sup>ませて、神事<sup>しんじ</sup>にのぞむ。

### 文 13. 「成<sup>なり</sup>立<sup>たち</sup>」

成<sup>なり</sup>立<sup>たち</sup>つまでの過<sup>か</sup>程<sup>てい</sup>。でき方<sup>かた</sup>。生<sup>お</sup>い立<sup>たち</sup>。

例：この本<sup>ほん</sup>の成<sup>なり</sup>立<sup>たち</sup>は、いろい<sup>ろ</sup>ろありましたが、10年<sup>ねん</sup>前<sup>まえ</sup>にさかのぼります。

また、仕組<sup>しく</sup>みや構成<sup>こうせい</sup>のことをいう場合<sup>ばあい</sup>もあります。

例：文<sup>れい</sup>の<sup>ぶん</sup>なりたちをみると、主語<sup>しゅご</sup>と述語<sup>じゆつご</sup>からできています。

### 文 15. 「とりわけ」

特別<sup>とくべつ</sup>に、ことさらに、特に。

例：この冬<sup>ふゆ</sup>はとりわけ寒<sup>さむ</sup>い。

### 文 15. 「乗<sup>の</sup>っ取<sup>と</sup>られる」

「乗<sup>の</sup>っ取<sup>と</sup>る」は奪<sup>うば</sup>い取<sup>と</sup>る、奪<sup>うば</sup>って自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>の支配<sup>しはい</sup>のもとにおさめるという意味<sup>いみ</sup>です。この受<sup>う</sup>け身<sup>み</sup>の形<sup>かたち</sup>ですから、無理<sup>むり</sup>やりとられたという意味<sup>いみ</sup>になります。

例：ハイジャックに飛<sup>ひ</sup>行<sup>こう</sup>機<sup>き</sup>を奪<sup>うば</sup>い取<sup>と</sup>られた。

### 文 17. 「学<sup>が</sup>校<sup>こう</sup>」

「校<sup>が</sup>」は、教<sup>きょう</sup>育<sup>いく</sup>の場<sup>ば</sup>、学<sup>が</sup>校<sup>こう</sup>・校<sup>が</sup>庭<sup>てい</sup>・校<sup>が</sup>舎<sup>しゃ</sup>という意味<sup>いみ</sup>で、「学<sup>が</sup>校<sup>こう</sup>」は小<sup>しょう</sup>学<sup>が</sup>校<sup>こう</sup>、中<sup>ちゅう</sup>学<sup>が</sup>校<sup>こう</sup>、高<sup>こう</sup>等<sup>とう</sup>学<sup>が</sup>校<sup>こう</sup>、盲<sup>もう</sup>学<sup>が</sup>校<sup>こう</sup>、聾<sup>ろう</sup>学<sup>が</sup>校<sup>こう</sup>、養<sup>よう</sup>護<sup>ご</sup>学<sup>が</sup>校<sup>こう</sup>、幼<sup>よう</sup>稚<sup>ち</sup>園<sup>えん</sup>を指<sup>さ</sup>すことが普<sup>ふ</sup>通<sup>つう</sup>です。「公<sup>こう</sup>立<sup>りつ</sup>学<sup>が</sup>校<sup>こう</sup>」は、国<sup>くに</sup>や地<sup>ち</sup>方<sup>ほう</sup>自<sup>じ</sup>治<sup>ち</sup>体<sup>たい</sup>が運<sup>うん</sup>営<sup>えい</sup>して<sup>いる</sup>学<sup>が</sup>校<sup>こう</sup>で、小<sup>しょう</sup>学<sup>が</sup>校<sup>こう</sup>や中<sup>ちゅう</sup>学<sup>が</sup>校<sup>こう</sup>では区<sup>く</sup>立<sup>りつ</sup>・町<sup>ちやう</sup>立<sup>りつ</sup>などが多<sup>お</sup>く、そのほかに多<sup>お</sup>くの「私<sup>し</sup>立<sup>りつ</sup>学<sup>が</sup>校<sup>こう</sup>」がありま<sup>す</sup>。「私<sup>し</sup>立<sup>りつ</sup>」は「市<sup>し</sup>立<sup>りつ</sup>」と区<sup>く</sup>別<sup>べつ</sup>するた<sup>め</sup>に、「わたくし<sup>りつ</sup>」という場<sup>ば</sup>合<sup>あい</sup>もあ<sup>る</sup>ま<sup>す</sup>。

### 3. 教育という言葉に存在する前提

①教育者は「正しいこと」、「本当のこと」を知っている

→教育者の権威の発生。体罰にもつながる

cf. 「子供に頑固な態度や粗野な態度があらわれると、私は厳格な態度に出て  
体罰を加えた」

(ペスタロッチ『隠者の夕暮れ・シュタンツだより』長田新訳、岩波書店、  
1993年、75頁)

②学習者はそれらを知ることのできる能力を持つ（もしくはそれら自体を  
潜在的に知っている）

③学習者は教育者からのほたらきかけにより、それらを身につけることが  
できる

★教育者の言いたいことは本当に伝わっているのか？

↑

★ルソーの教育論

- |  |   |
|--|---|
| 1. では、今までの話を振り返ってみましょう。  | 1. Let us review what I have talked about thus far.   |
| 2. 教育という言葉は、技能などを身につけてもらうための、何らかの意図を持ったほたらきかけであると定義できました。        | 2. Education can be defined as an intentional act with an aim of enabling people to acquire the necessary skills.   |
| 3. そしてそれは、常にそういう意味を持ち続けていたわけではなく、特定の歴史的な背景を背負っているのだということを指摘しました。 | 3. Further, as I explained, this word previously had quite a different meaning and also has a particular history that is connected to the rise of modern society and contemporary family structure. |
| 4. さて、次に、このような意味での教育という言葉において、しばしば前提とされている事柄を指摘したいと思います。         | 4. Next, I would like to focus on some presuppositions that are apparent in the meaning of education.   |
| 5. まず挙げられるのは、教育者は正しいこと、本当のことを知っているのだという前提です。ここには、様々な種類の知識や技能、さ   | 5. The first is the presupposition that the educators know what is "right" and "true." This contains various kinds of knowledge,  |

らには感情や考え方などが含まれます。  
仮に教育者が何にも知らないような人であれば、その人が何らかの意図をもって技能等を身につけさせようとはたらしめることはできません。

6. 加えて、この前提があるからこそ、教育者は教育者として存在できるのです。言い換えれば、教育者の権威を保証するものとして、この前提が存在しているわけです。

7. また、この前提は、時に教育者による学習者への体罰を招くことがあります。日本の学校において、体罰は法律で禁止されていますが、実際はかなり行われています。実際、私自身も学校の先生に殴られたことがありますし、授業中に「廊下に立っている」と言われたこともあります。

8. 体罰の背景には様々な理由があるのですが、今述べたような前提も体罰を振るう理由のひとつとして存在しているのではないかと考えられます。

9. すなわち、教育者は「正しいこと」「本当のこと」を知っているからこそ、それを知らず、かつ抵抗する学習者に対して、何らかの体罰を加えてもよいのだ、というわけです。

10. 実際、こうした考え方は昔から言われています。著名な教育学者であるペスタロッチは、「子供に頑固な態度や粗野な態度があらわれると、私は厳格な態度に出て体罰を加えた」と述べ、体罰を肯定しています。

11. この場合、教育者の立場であるペスタロッチは全知全能の神の代理人として置かれており、だからこそ自分は正しいことを知っており、体罰を振るえるのだという論を展開しています。

skills, emotions, and ways of thinking. If the educators did not possess knowledge, they would not be able to act intentionally to promote people to acquire skills.

6. This presupposition also makes it possible for the educators to justify their existence. In other words, this presupposition is a guarantee of the social acceptance of their authority.

7. This authority also justifies the physical punishment teachers use on students. In Japanese schools, physical punishment still takes place despite the fact it has been officially abolished. As a student I have had the experience of being struck by a teacher and I was also made to stand up and wait outside the class.

8. There may be several reasons for physical punishment, and I think that the presupposition I have explained above is one of them.

9. That is, the educator can punish the learner who does not know what is “right” and “true.”

10. This way of thinking has a long history. Pestalozzi, a famous scholar of education, says, “Whenever children show stubborn and rude attitudes, I take a strict attitude and punish them,” thus admitting that he resorts to physical punishment.

11. In this case, Pestalozzi, the educator, is regarded as an agent of the Almighty God. He develops a theory and therefore he can

12. ただし、ペスタロッチは、子どもと長期に渡って過ごす両親による体罰は肯定的でしたが、子どもと日夜生活するわけでもなく、かつ家庭を異にする学校の教師による体罰は、子どもの信頼が得られていないという点を理由に否定的にとらえていたということも指摘しておきます。

13. さて、では次の前提に移りましょう。次の前提は、学習者は「正しいこと」や「本当のこと」を知ることのできる能力を持つ、もしくはそれら自体を潜在的に知っているというものです。いくら教育者がはたらきかけても、学習者がそのはたらきかけの内容を知る力がそもそもないとされてしまうと、そのはたらきかけ自体が意味のないものになってしまいます。

14. そのため、教育という言葉を定義する際には、暗黙のうちに、学習者が教育者の伝えたい内容を知る能力がある、もしくは事前にその内容を知っているということが前提とされます。すなわち、教育者と学習者は同じタイプの人間であるという仮定が成り立っているわけです。

15. 教えられる前に事前に内容を知っているということは現在ではあまり現実味がありませんが、ギリシャの哲学者プラトンはそのように考えていました。

16. プラトンは、学習を既に知っている内容を想起することだとしてとらえ、教育はそれを

physically punish his students.

12. However, I should point out that he advocates that only parents can use physical punishment on their children because they live together as a family unit. He states that teachers cannot be authorized to apply such punishment because they do not live with children and that there is no relationship of trust between the two parties. In short, the educator is not a parent.

13. Let us move on to the next presupposition, which is that the learners have the ability to know, or that they potentially know what is “right” and “true.” However eagerly the educators act, if the learners did not have an ability to absorb the contents of education, the act itself would become meaningless.

14. For this reason, when we define education, we unconsciously presuppose that the learners have the ability to understand, or know in advance what the educators want to teach. In other words, the assumption that the educators and the learners are the same kind of human beings is a fixed assumption.

15. It does not seem real to think that the learners know in advance the contents of education before they are taught. However, the Greek philosopher Plato thinks so.

16. Plato regards learning as recollection, and education as a method to promote it.

- 導<sup>みちび</sup>いていくための手段<sup>しゅだん</sup>であると考え<sup>かんが</sup>ていました。
17. さらにもうひとつの前提<sup>ぜんてい</sup>として、学習者<sup>がくしゅうしや</sup>は教育者<sup>きょういくしや</sup>によるはたらきかけによって、「正しいこと」や「本当のこと」を身につけることができるということが挙げられます。いくら学習者<sup>がくしゅうしや</sup>が知る能力<sup>のうりよく</sup>を持<sup>も</sup>っているといっても、それを発揮<sup>はつぎ</sup>させないことには教育<sup>きょういく</sup>が成<sup>な</sup>り立<sup>た</sup>ちません。そのために、教育者<sup>きょういくしや</sup>がはたらきかけねばならない、ということです。
18. ただし、現在の教育哲学<sup>げんざい きょういくてつがく けんきぎゅう</sup>の研究<sup>けんきゅう</sup>においては、この点<sup>てん</sup>については疑問<sup>ぎもん</sup>に付<sup>つ</sup>されていることも事実<sup>じじつ</sup>です。例えば、ある学者<sup>がくしや</sup>は、教育者<sup>きょういくしや</sup>の発<sup>はつ</sup>する言葉<sup>ことば</sup>というの<sup>は</sup>、その言葉<sup>ことば</sup>通り学習者<sup>がくしゅうしや</sup>によって受け取<sup>と</sup>られるわけではなく、学習者<sup>がくしゅうしや</sup>ひとりひとりの経験<sup>けいけん</sup>や学習<sup>がくしゅう</sup>の場<sup>ば</sup>の雰囲気<sup>ふんいき</sup>などの影響<sup>えいきょう</sup>のもとで解釈<sup>かいしやく</sup>をされるのだ、と指摘<sup>してき</sup>しています。
19. その意味<sup>いみ</sup>では、教育者<sup>きょういくしや</sup>の掲<sup>か</sup>げる「正しさ」や「本当」は、学習者<sup>がくしゅうしや</sup>によって積極<sup>せつきよく</sup>的に解釈<sup>かいしやく</sup>され、結果<sup>けつかけ</sup>的に当初<sup>とうしよ</sup>の意味<sup>いみ</sup>とは違<sup>ちが</sup>ったように受け取<sup>と</sup>られてしまう可能性<sup>かのうせい</sup>も出てきます。それゆえ、教育者<sup>きょういくしや</sup>の言<sup>い</sup>いたいことが本当<sup>ほんとう</sup>に伝<sup>つた</sup>わっているのかどうかというの<sup>は</sup>、怪<sup>あや</sup>しいのではないかと指摘<sup>してき</sup>されています。
20. ともあれ、以上<sup>いじよう</sup>のような前提<sup>ぜんてい</sup>が全<sup>ぜん</sup>面的<sup>めんてき</sup>に出<sup>だ</sup>されている理論<sup>りろん</sup>をひとつ紹<sup>しょう</sup>介<sup>かい</sup>しておきましよう。それは、ルソーの教育論<sup>きょういくろん</sup>です。
21. あまりここで詳<sup>くわ</sup>しくは話<sup>はな</sup>せませんが、ルソーは、自然<sup>しぜん</sup>状態<sup>じょうたい</sup>という理想<sup>りそう</sup>を万人<sup>ばんにん</sup>に共<sup>きょう</sup>通<sup>つう</sup>するものとして掲<sup>か</sup>げ、それを実<sup>じつ</sup>現<sup>げん</sup>させていくために教育<sup>きょういく</sup>をするこ<sup>と</sup>を提<sup>てい</sup>唱<sup>しょう</sup>しました。
23. その際<sup>さい</sup>、教育者<sup>きょういくしや</sup>はありとあらゆる「正しいこと」や「本当のこと」を知<sup>し</sup>っている人間<sup>にんげん</sup>と
17. The other presupposition is that the learners can absorb what is “right” and “true” by the educators. Even though the learners have the ability to know, if they do not utilize that ability, they cannot learn. To do this, the educators must make an effort.
18. However, in contemporary educational theory, this point is questioned. For example, a scholar argues that the word of the educator is not accepted by the learner at face value. Rather, it is interpreted and influenced by the learner’s experience and the atmosphere of the place of learning.
19. In this sense, it is possible that the “right” and “true” statements that are put forward by the educators may be interpreted and understood differently. Therefore, it is uncertain whether what the educators want to say is really accepted.
20. I would like to introduce a theory which in its entirety contains three presuppositions. It is Rousseau’s educational theory.
21. I have no time to discuss it in detail so here is a brief summary. Rousseau assumes the state of nature as an ideal which is common to all people, and advocates education as a method to realize it.
22. According to his theory, the educator is regarded as a person who knows what is

してとらえられています。そして学習者は、  
教育者がはたらきかける「正しいこと」や  
「本当のこと」を学ぶことができる能力を  
生まれつき持った人間としてとらえられて  
います。さらに、学習者は放っておくとダ  
メになってしまう存在として仮定され、だか  
らこそ教育者の配慮によって育てられる  
必要があるのだ、という論をルソーは展開し  
ていきます。

23. ルソーの教育論は消極教育の代表とされ、  
何でもかんでも詰め込むべきではなく、  
子どもの発達段階に応じた教育をするべ  
きだという主張をしています。

24. しかし、そうした積極的なはたらきかけを  
できるだけ避けようとする中にさえも、意図的  
なはたらきかけとしての教育観や、それを  
支える前提、先ほど話した3つの前提が入り  
込んでいるのだということは、これから  
教育という行為について考えていくため  
に覚えておいても損はないでしょう。

“right” and “true” The learner, on the  
other hand, is regarded as a person who, by  
nature, has the ability to understand and  
know what the educator teaches. In  
addition, the learner is assumed to be  
corruptible without the benefit of  
instruction from the educator. Rousseau  
therefore develops the notion that the  
learner needs to be educated by the  
educator under good care.

23. Rousseau is the representative of the  
notion of “negative education”. He argues  
that we should not expose children to a  
cramming-style education system, but  
need to educate them in accordance with  
their developmental stages.

24. So in conclusion, it should be  
emphasized that the theory of education  
contains the view of education as an  
intentional act that is supported by the three  
presupposition that I outlines above. I will  
stop now and will leave you with this point to  
consider. Thank you for coming today. I  
hope we can meet again. If you see me  
around the campus please say hello. Thank  
you for listening.

## キーワード

- ・ モニトリアル・スクール : monitorial school
- ・ 体罰 : physical punishment
- ・ 想起 : recollection
- ・ 消極教育 : negative education
- ・ 発達段階 : developmental stage

## 関連用語

- ・詰め込み教育：cramming-style education system
- ・教化：indoctrination
- ・児童中心主義教育：child-centered education

## 日本語解説

### 文 6. 「権威」

他人を強制し、服従させる威力。人に認められ従ってもらえるだけの精神的・道徳的・社会的・法的な威力。

例：今回の事件で、警察の権威が失われた。

また、その道で第一人者と認められている人。大家。

例：あの先生は経済学の権威だそうだ。

### 文 7. 「体罰を振るう」

「ふるう」は大いに発揮するという意味ですから、体罰をすることです。「体罰」は身体に直接加える罰で、苦痛をあたえるようなものです。ぶつ、つねるなどのほかに、走らせる、重いものをもたせて立たせるなども体罰に入ります。

例：生徒に体罰を加える。

### 文 10. 「頑固」

人の言うことや周りの変化などにかかわらず、それまでの考えややり方、態度を守ろうとすること。

例：あの人は頑固だから、

なおりにくくしつこいことにも使います。

例：頑固なよごれも、この洗剤でおとせます。

### 文 10. 「粗野」

言動や行動があらくていやしいこと。

例：言動が粗野で、みんなからうとまれている。

### 文 11. 「全知全能」

どんなことでもよく知り、どんなことでもよくできる神の能力。

例：あの人は全知全能の神ではないのだから、失敗もする。

文 13. 「潜在的」

外面<sup>がいめん</sup>には、はっきり現<sup>あらわ</sup>れず、内面<sup>ないめん</sup>に存在<sup>そんざい</sup>するようす。

例：人<sup>ひと</sup>はみな潜在<sup>せんざい</sup>的<sup>てき</sup>可能<sup>かのう</sup>性<sup>せい</sup>をもっている。

文 14. 「暗黙」

だまっていわないこと。意思<sup>いし</sup>を外面<sup>がいめん</sup>にあらわさないこと。

例：暗黙<sup>あんもく</sup>の了解<sup>りようかい</sup>を得<sup>え</sup>ている。

文 19. 「怪しい」

疑<sup>うたが</sup>わしい、あてにならないこと。

例：本<sup>ほん</sup>当<sup>とう</sup>に來<sup>く</sup>るかどうか、あやしい。

文 20. 「ともあれ」

どうであつても、ともかく。

例：なにはともあれ、やってみよう。

文 21. 「万人」

多<sup>おお</sup>くの人<sup>ひと</sup>、すべての人<sup>ひと</sup>。

例：地球<sup>ちきゅう</sup>温暖<sup>おん</sup>化<sup>だん</sup>の問題<sup>か</sup>は万人<sup>もんだい</sup>の生活<sup>ぼんにん</sup>がかかっている。

文 23 「ありとあらゆる」

あるとかがえられるすべての。

例：ありとあらゆるもの<sup>いっしゆん</sup>がすべて一瞬<sup>き</sup>に消えた。

【引用・参考文献】

教育思想史学会（編）（2000）『教育思想事典』勁草書房

藤田英典、田中孝彦、寺崎弘昭（1997）『教育学入門』岩波書店

ペスタロッシー（著）、長田新（翻訳）（1993）『隠者の夕暮れ・シュタンツ便り』岩波書店

ルソー（著）、今野一雄（翻訳）（1964）『エミール』岩波書店